

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

— 平成 13 年 1 月 調査結果 —

(平成 13 年 2 月 1 日)

○調査期間：平成 13 年 1 月 19 日～25 日

○調査対象：全国の 394 商工会議所が 2657 業種組合等にヒアリング  
(内訳) 建設業 392 製造業 644 卸売業 244  
小売業 762 サービス業 615

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (DI 値を集計)  
及び、業界として当面する問題等

※ DI 値について

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)  
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 03-3283-7844 / 7836

E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成13年1月調査結果のポイント】

業況D1のマイナス幅4ヵ月連続拡大。さらに強まる低迷感

- 1月の景況をみると、全産業合計の業況D1（前年同月比ベース、以下同じ）は、製造業、サービス業および卸売業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲42.4）よりマイナス幅が0.9ポイント拡大して▲43.3となった。昨年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は概ね横ばい傾向で推移したが、10月以降4ヵ月連続してマイナス幅が拡大し、1年前とほぼ同水準になった（参考：昨年1月期は▲43.1）。中小企業の景況には、低迷感がさらに強まっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。

建設業では、前月の大幅な業況悪化の反動から、業況D1のマイナス幅は若干縮小しているものの、引き続き「公共工事は前年比で2割減少、更に単価も下落し、厳しい状況」（一般工事）、「大手ハウスメーカーが以前は手を出さなかったリフォーム業に進出してきたため、町場工務店の仕事が圧迫されている」（建築工事）など厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。製造業では、特に、これまで比較的好調であった電気機械、輸送機械等で厳しさが増しており、「比較的好調であった自動車関連もやや減少気味。加工単価の引下げ要求や少ロットでの受注が多く効率を悪くしている」（自動車・附属品）、「11月、12月が屈折点だろう。動きが鈍くなってきている」（電子部品）、「ここにきて低迷しはじめてきた。昨年末より予想はしていたものの、予想以上に低迷の状態」（ブリキ缶等）などの声が寄せられている。卸売業では、「野菜入荷量が若干増え、高値のため売上増。果実も主力のみかん単価が前年の2倍となり売上増」（農畜産水産物）との声がある一方で、「利益率の低下が目立つ。高級品が売れない。春先までに資金繰りが厳しくなり倒産する所も出てきそう」（衣服・日用品）、「通販、ネットでの商品購入などで厳しい状況にある」（総合卸）、「北洋材の産地国での在庫不足や円安傾向により、先行き仕入価格の上昇は必至と見られているが、コスト上昇を製品価格に反映できるかどうか懸念される」（建築材料）など、引き続き厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。小売業では、「依然として客単価の低下に歯止めがかからない」（百貨店）、「近年にない1月の豪雪で、来街客が減少」（商店街）、「大型店出店の影響で売上減少」（商店街）などの厳しい声が寄せられる一方、寒波の影響で衣料品や暖房器具の販売好調という声や、「初売りを前年の1月3日から1月2日に繰り上げたことで、売上が伸びている。営業時間を20時まで1時間延長したことと、大店立地法に伴う営業日の拡大により、業況は好転すると思われる」（百貨店）などの声も、大型店を中心に寄せられている。サービス業では、「パソコン講座による需要が増加」（人材派遣）といった声がある一方、「チェーン店、フランチャイズ店出店の影響が出て厳しい」（一般飲食店）、「会議、会合、結婚式等も競争激化であり、売上、収益とも大変厳しい経営環境にある」（旅館）、「成人式も大雪のためキャンセルが多く、また着付けも少なかった」（美容）、「官庁関係や企業の新年会が減少」（食堂・レストラン）といった指摘も多く寄せられている。

売上面では、製造業、サービス業および卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことにより、全業種合計の売上D1はマイナス幅が0.9ポイント拡大して▲38.0となった。採算面では、製造業を除く全業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全業種合計の採算D1はマイナス幅が1.2ポイント縮小して▲39.9となった。

- 向こう3ヵ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D1（今月比ベース）が▲36.8と、昨年同時期の先行き見通し（▲32.8）に比べて厳しい見方となっている。

○ 景気に関する声、当面する問題としては、個人消費や為替相場の動向、補正予算による公共工事の受注動向についての関心が高い。

【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、製造業、サービス業および卸売業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲42.4）よりマイナス幅が0.9ポイント拡大して▲43.3となった。昨年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は概ね横ばい傾向で推移したが、10月以降4ヵ月連続してマイナス幅が拡大し、1年前とほぼ同水準になった。中小企業の景況には、低迷感がさらに強まっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。

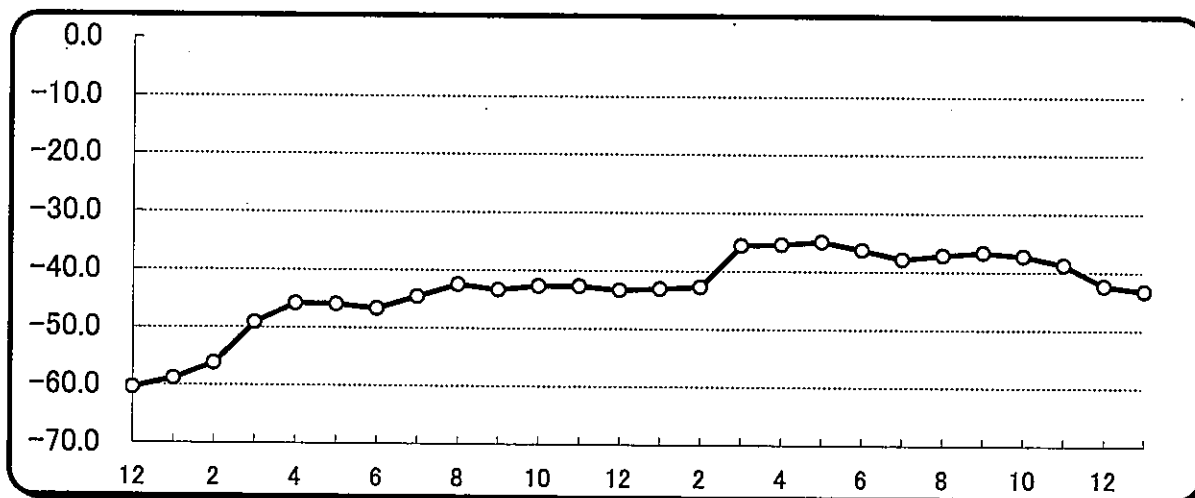
○ 向こう3ヵ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲36.8と、昨年同時期の先行き見通し（▲32.8）に比べて厳しい見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	12年 8月	9月	10月	11月	12月	13年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲37.2	▲36.7	▲37.3	▲38.8	▲42.4	▲43.3	▲36.8 (▲32.8)
建設	▲47.6	▲50.6	▲49.6	▲50.3	▲58.0	▲57.5	▲50.5 (▲38.9)
製造	▲24.9	▲26.5	▲20.4	▲23.9	▲28.3	▲31.0	▲29.3 (▲23.9)
卸売	▲43.8	▲34.2	▲41.5	▲47.2	▲44.9	▲45.6	▲38.1 (▲26.6)
小売	▲44.2	▲45.5	▲46.9	▲46.9	▲48.9	▲48.0	▲37.5 (▲39.7)
サービス	▲31.8	▲28.5	▲34.2	▲33.7	▲38.4	▲40.3	▲34.1 (▲32.3)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しDI  
（ ）内は昨年1月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



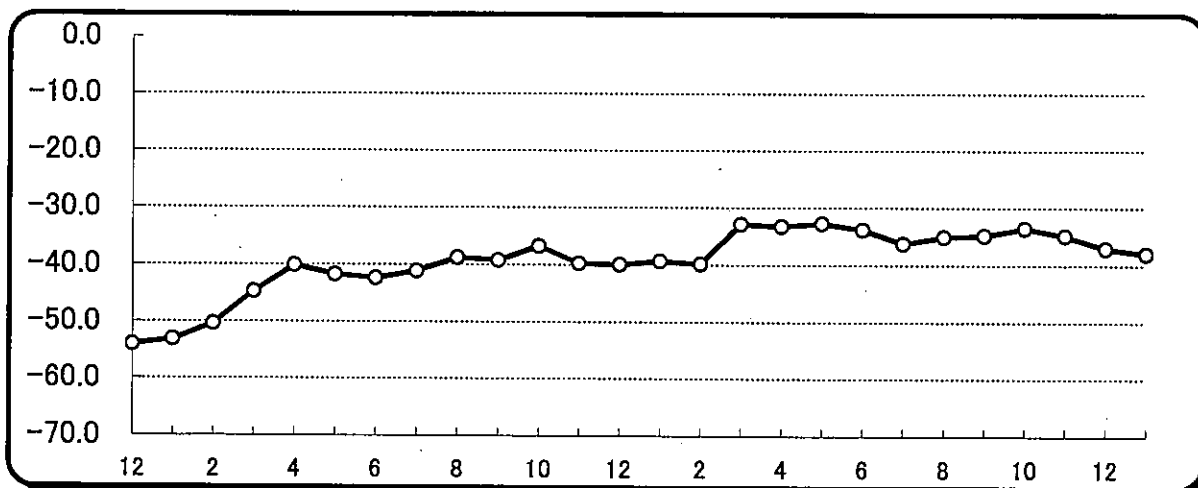
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、製造業、サービス業および卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したことにより、全業種合計の売上DIはマイナス幅が0.9ポイント拡大して▲38.0となった。
- 向こう3ヵ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲30.3と、昨年同時期の先行き見通し（▲29.5）に比べてやや厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	12年 8月	9月	10月	11月	12月	13年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲35.1	▲34.9	▲33.6	▲34.9	▲37.1	▲38.0	▲30.3 (▲29.5)
建設	▲42.1	▲48.2	▲44.2	▲48.5	▲50.2	▲47.6	▲41.3 (▲36.7)
製造	▲18.9	▲18.1	▲11.9	▲13.8	▲17.1	▲23.7	▲18.1 (▲19.3)
卸売	▲41.0	▲36.0	▲46.3	▲42.3	▲39.1	▲39.4	▲33.8 (▲25.8)
小売	▲48.2	▲47.1	▲43.9	▲46.6	▲49.6	▲45.9	▲35.3 (▲36.2)
サービス	▲29.3	▲28.5	▲32.4	▲31.2	▲33.9	▲36.6	▲28.6 (▲29.1)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



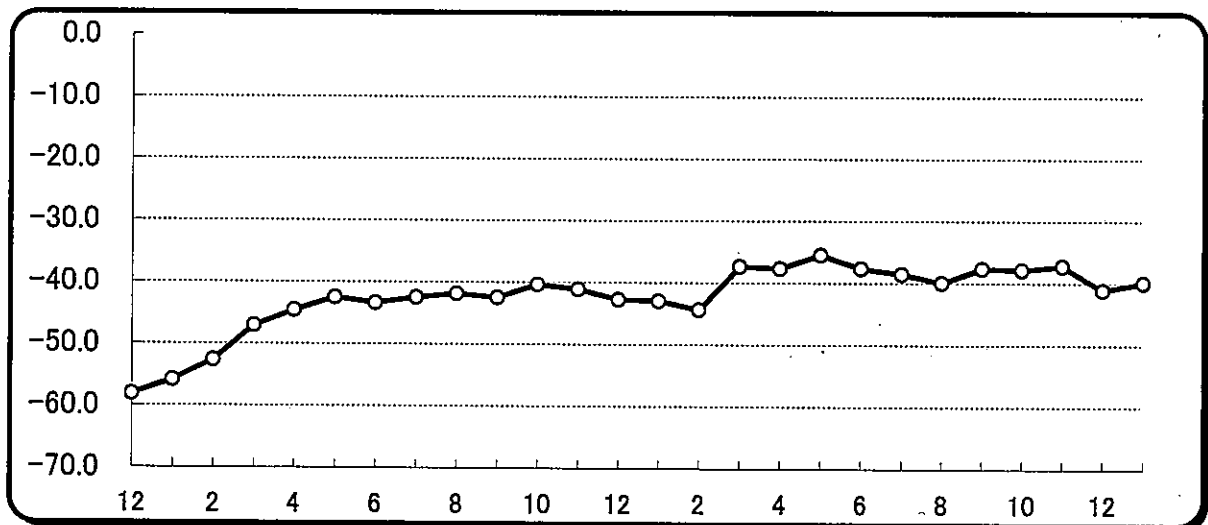
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、製造業を除く全業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全業種合計の採算D Iはマイナス幅が1.2ポイント縮小して▲39.9となった。
- 向こう3ヵ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲32.1と、昨年同時期の先行き見通し(▲31.7)に比べて、若干改善への期待を示す見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	12年 8月	9月	10月	11月	12月	13年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲40.0	▲37.7	▲37.9	▲37.3	▲41.1	▲39.9	▲32.1 (▲31.7)
建設	▲52.1	▲54.4	▲55.1	▲51.9	▲58.0	▲53.8	▲44.1 (▲38.5)
製造	▲30.4	▲28.0	▲26.3	▲26.7	▲30.1	▲33.6	▲24.7 (▲24.6)
卸売	▲42.7	▲43.8	▲45.7	▲38.0	▲41.0	▲36.3	▲31.9 (▲27.1)
小売	▲45.2	▲40.4	▲39.0	▲41.6	▲46.8	▲44.2	▲34.6 (▲37.0)
サービス	▲34.5	▲31.5	▲34.7	▲33.2	▲34.9	▲33.2	▲29.1 (▲29.9)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

※平成12年7月期から調査実施

	12年 8月	9月	10月	11月	12月	13年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	▲ 23.4	▲ 25.6	▲ 25.7	▲ 25.2	▲ 28.5	▲ 26.8	▲ 24.7
建設	▲ 32.4	▲ 37.0	▲ 32.4	▲ 32.1	▲ 38.3	▲ 34.7	▲ 35.2
製造	▲ 20.3	▲ 23.5	▲ 22.1	▲ 20.8	▲ 27.6	▲ 24.5	▲ 20.9
卸売	▲ 20.8	▲ 19.7	▲ 21.3	▲ 23.1	▲ 25.2	▲ 20.9	▲ 21.7
小売	▲ 22.0	▲ 25.2	▲ 26.1	▲ 27.4	▲ 28.9	▲ 28.5	▲ 25.8
サービス	▲ 23.2	▲ 22.8	▲ 26.6	▲ 23.5	▲ 23.1	▲ 24.3	▲ 21.8

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】 サービス業を除く全業種で悪化超感弱まる。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	12年 8月	9月	10月	11月	12月	13年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	0.3	▲ 0.3	0.4	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 2.1	▲ 3.1 (▲ 2.3)
建設	0.3	▲ 0.4	0.0	2.1	▲ 1.5	▲ 3.5	▲ 5.6 (▲ 2.4)
製造	▲ 5.2	▲ 6.6	▲ 3.6	▲ 6.0	▲ 4.9	▲ 5.6	▲ 6.3 (▲ 6.7)
卸売	7.3	9.3	12.8	4.3	7.1	6.3	5.6 (3.9)
小売	7.1	6.6	4.6	8.0	6.8	4.8	1.3 (2.2)
サービス	▲ 5.2	▲ 6.1	▲ 5.1	▲ 7.8	▲ 6.1	▲ 9.1	▲ 7.1 (▲ 5.9)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】 全業種で上昇超感強まる。

【先行き見通しD I】 建設業、小売業およびサービス業で、昨年同時期に比べて上昇超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	12年 8月	9月	10月	11月	12月	13年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲ 10.1	▲ 8.6	▲ 9.1	▲ 9.5	▲ 11.0	▲ 10.6	▲ 12.0 (▲ 11.3)
建設	▲ 24.1	▲ 21.3	▲ 20.9	▲ 20.6	▲ 20.9	▲ 22.6	▲ 22.1 (▲ 19.6)
製造	▲ 7.6	▲ 6.6	▲ 9.1	▲ 10.4	▲ 13.0	▲ 10.0	▲ 14.8 (▲ 13.2)
卸売	▲ 14.6	▲ 10.6	▲ 11.6	▲ 9.2	▲ 10.9	▲ 15.0	▲ 17.9 (▲ 12.6)
小売	▲ 5.8	▲ 7.0	▲ 6.6	▲ 5.4	▲ 6.4	▲ 8.6	▲ 10.0 (▲ 8.7)
サービス	▲ 6.4	▲ 3.5	▲ 3.3	▲ 5.7	▲ 7.7	▲ 3.9	▲ 2.3 (▲ 6.9)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】製造業、サービス業で過剰超感弱まる。

【先行き見通しD I】サービス業を除く全業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年1月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

「受注量が増加。採算は好転」（西条・建設建築用金属製品製造）、「パソコン講座による需要が増加している」（高岡・人材派遣）などの声がある一方で、先行きの発注についての不透明感の指摘が多く寄せられている。建設業では、「公共工事、民間設備投資とも依然として状況は厳しく、好転する兆しは見られない」（赤穂・一般工事）、「受注減のために、資金繰りが非常に厳しい状況が続いており、明日の見通しが立たない」（一宮・一般工事）、「住宅着工件数は前年比89%で、相変わらず明るい兆しは見えない」（帯広・建築工事）などの声が寄せられている。製造業では、「ここにきて低迷はじめてきた。予想以上に低迷の状態」（与野・ブリキ缶等）、「動きが鈍くなってきている」（伊那・電子部品）などの声が寄せられている。また、サービス業からは、旅館や飲食店において、団体客の予約が少ないなどの声が寄せられている。

○ 競争激化

建設業からは、「公共工事は前年比で2割減少、更に単価も下落し、厳しい状況」（恵庭・一般工事）、「大手ハウスメーカーが以前は手を出さなかったリフォーム業に進出してきたため、町場工務店の仕事が圧迫されている」（東京・建築工事）といった声が寄せられている。製造業からは、「同業者間での得意先の奪い合いが激しい」（八尾・印刷業）といった声や、「海外生産国の生産増加により、国内向けの生産及び販売が低迷している」（燕・金物類）、「中国製品の輸入増大」（泉大津・ニット、シャツ）など海外製品等との競争激化についての指摘が多く寄せられている。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「通販、ネットでの商品購入などで厳しい状況にある」（所沢・総合卸）、「外資の参入による競争激化」（唐津・百貨店）、「大型店出店の影響で売上減少」（茅ヶ崎・商店街）、「チェーン店、フランチャイズ店出店の影響が出て厳しい」（柏・一般飲食店）など、顧客獲得競争の激化による採算面への影響を懸念する声が寄せられている。

○ 豪雪・寒波の影響

今月は、全国各地で豪雪や寒波に見舞われ、その影響について様々な声が寄せられた。卸売業・小売業から、野菜・果物が高値のため売上増という声や、寒波の影響で衣料品や暖房器具の売上好調という声が寄せられる一方、「15年ぶりの大雪のため、外構工事は、除雪や工期の遅れから大幅なコスト高となり採算面が悪化」（松任・管工事）、「大雪による操業度低下が今後どう影響してくるか見守る必要がある」（松任・金属加工機械製造）、「大雪により受注も弱く配送も苦戦」（鶴岡・食料飲料卸）、「近年にない1月の豪雪で、来街客が減少」（五泉・商店街）、「成人式も大雪のためキャンセルが多く、また着付けも少なかった」（須賀川・美容）、「大雪のため、キャンセルが続いている」（米沢・旅館）といった厳しい状況を訴える声も多く寄せられた。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
12年11月	競争激化	消費単価の低下	
12月	先行き不透明感	競争激化	
13年1月	先行き不透明感	競争激化	豪雪・寒波の影響

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。



(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D1とも前月のマイナス幅大幅拡大から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。その一方で、引き続き「公共工事は前年比で2割減少、更に単価も下落し、厳しい状況」(一般工事)、「大手ハウスメーカーが以前は手を出さなかったリフォーム業に進出してきたため、町場工務店の仕事が圧迫されている」(建築工事)など厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D1とも3ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。このうち業況・売上D1は、全業種で最も拡大幅が大きく、また採算D1については全業種中、唯一のマイナス幅拡大となっている。特に、これまで比較的好調であった電気機械、輸送機械等で厳しさが増しており、「比較的好調であった自動車関連もやや減少気味。加工単価の引下げ要求や少ロットでの受注が多く効率を悪くしている」(自動車・附属品)、「11月、12月が屈折点だろう。動きが鈍くなってきている」(電子部品)、「ここにきて低迷しはじめてきた。昨年末より予想はしていたものの、予想以上に低迷の状態」(ブリキ缶等)などの声が多く寄せられている。
卸 売	業況・売上D1は前月水準に比べてマイナス幅が拡大する一方、採算D1はマイナス幅が縮小している。「野菜入荷量が若干増え、高値のため売上増。果実も主力のみかん単価が前年の2倍となり売上増」(農畜産水産物)との声がある一方で、「利益率の低下が目立つ。高級品が売れない。春先までに資金繰りが厳しくなり倒産する所も出てきそう」(衣服・日用品)、「通販、ネットでの商品購入などで厳しい状況にある」(総合卸)、「北洋材の産地国での在庫不足や円安傾向により、先行き仕入価格の上昇は必至と見られているが、コスト上昇を製品価格に反映できるかどうか懸念される」(建築材料)など、引き続き厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「依然として客単価の低下に歯止めがかからない」(百貨店)、「近年にない1月の豪雪で、来街客が減少」(商店街)、「大型店出店の影響で売上減少」(商店街)などの厳しい声が寄せられる一方、寒波の影響で衣料品や暖房器具の販売好調という声や、「初売りを前年の1月3日から1月2日に繰り上げたことで、売上が伸びている。営業時間を20時まで1時間延長したこと、大店立地法に伴う営業日の拡大により、業況は好転すると思われる」(百貨店)などの声も、大型店を中心に寄せられている。
サービス	業況・売上D1とも2ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が拡大する一方、採算D1は2ヵ月ぶりにマイナス幅が縮小している。「パソコン講座による需要が増加」(人材派遣)といった声がある一方、「チェーン店、フランチャイズ店出店の影響が出て厳しい」(一般飲食店)、「会議、会合、結婚式等も競争激化であり、売上、収益とも大変厳しい経営環境にある」(旅館)、「成人式も大雪のためキャンセルが多く、また着付けも少なかった」(美容)、「官庁関係や企業の新年会が減少」(食堂・レストラン)といった指摘も多く寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

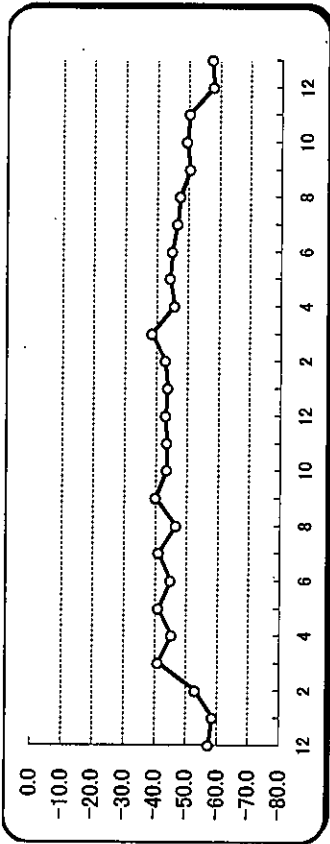
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。また、東北、北陸信越、関東、四国の各ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（2月～4月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。関東、東海、近畿を除く全ブロックで、昨年同時期の先行き見通しに比べて厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

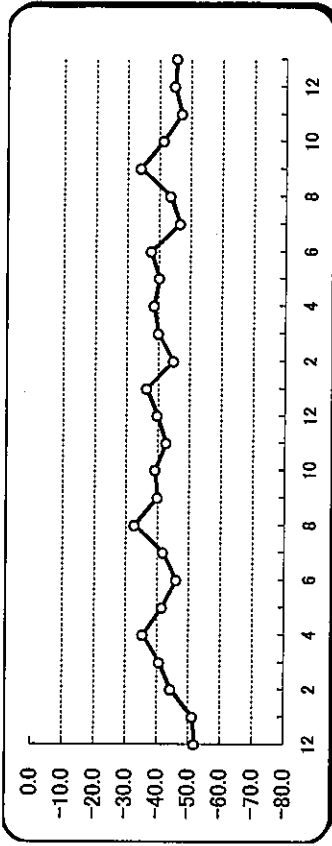
	12年 8月	9月	10月	11月	12月	13年 1月	先行き見通し 2月～4月
全 国	▲ 37.2	▲ 36.7	▲ 37.3	▲ 38.8	▲ 42.4	▲ 43.3	▲ 36.8 (▲ 32.8)
北海道	▲ 38.5	▲ 29.1	▲ 33.1	▲ 35.3	▲ 43.4	▲ 43.1	▲ 39.8 (▲ 23.7)
東 北	▲ 33.6	▲ 32.3	▲ 35.8	▲ 35.0	▲ 39.3	▲ 45.3	▲ 39.6 (▲ 35.8)
北陸信越	▲ 29.2	▲ 38.9	▲ 34.8	▲ 39.7	▲ 42.4	▲ 47.9	▲ 37.9 (▲ 25.5)
関 東	▲ 36.7	▲ 33.5	▲ 35.4	▲ 34.0	▲ 37.8	▲ 41.8	▲ 29.9 (▲ 31.2)
東 海	▲ 34.0	▲ 33.1	▲ 35.3	▲ 40.6	▲ 40.9	▲ 37.0	▲ 32.7 (▲ 34.9)
近 畿	▲ 37.9	▲ 46.0	▲ 41.5	▲ 45.9	▲ 47.3	▲ 43.0	▲ 38.9 (▲ 41.1)
中 国	▲ 39.5	▲ 37.3	▲ 37.4	▲ 39.0	▲ 44.5	▲ 42.8	▲ 40.4 (▲ 38.4)
四 国	▲ 54.9	▲ 46.2	▲ 49.1	▲ 45.7	▲ 48.6	▲ 57.8	▲ 49.1 (▲ 33.1)
九 州	▲ 37.3	▲ 35.3	▲ 37.5	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 39.5	▲ 37.7 (▲ 29.6)

# 業況D I (前年同月比) の推移 (全国)

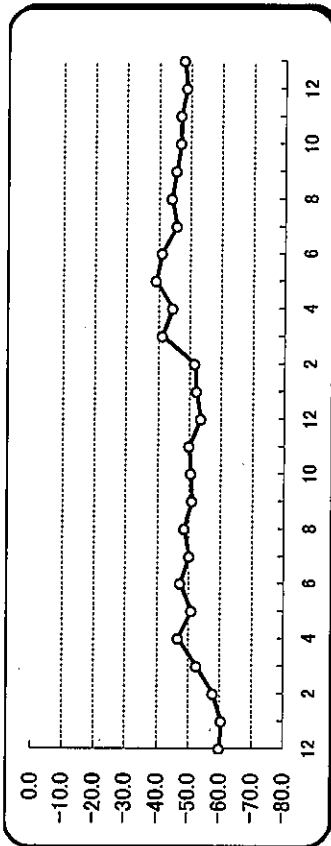
## 建設業



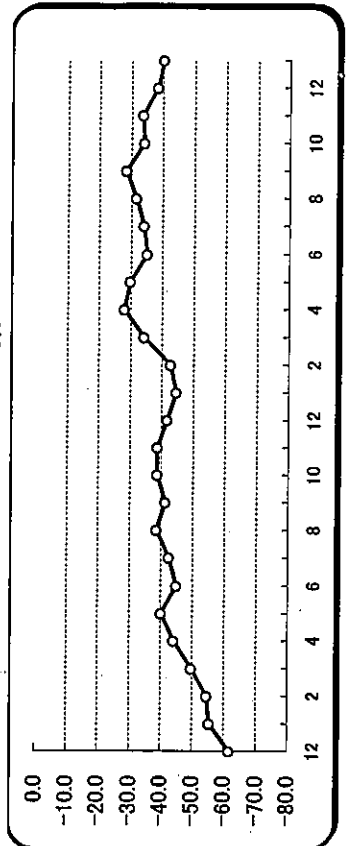
## 卸売業



## 小売業



## サービス業



## 製造業

